平成27年度議会報告会における意見及び質問に対する回答

No	市民の声	補足説明	執行部からの回答	担当課	会場	所管委員会
1	支所で取り扱う業務に「その他」という項目があるが、どういったものがあるのか。 南部三町は高齢化率が高い。しかしながら、例えば民生委員は旧市と変わらない基準で配置されている。そうなると相対的に見て、民生委員の数が足らなくなるのでないか。	民生委員の配置基準及び今後の配置の方針について、回答をお願いしたい。	民生委員・児童委員の配置基準は、県の『佐賀県民生委員定数条例』で市町ごとに70から200世帯に1人と定められており、『佐賀県民生委員定数条例規則』により佐賀市の定数が536人とされています。 なお、民生委員の主な見守り対象者である65歳以上の高齢者数の一人あたりの平均は、旧市132.7人、支所管内109.5人となっておりますが、地理的条件や世帯数、人口、高齢化率などの地域性を踏まえ、地域団体と調整の上で、民生委員の配置を行う必要があると考えております。 民生委員配置については、担当地区の均衡性を考慮しながら配置を行い、増員の要望があった場合は、県へ要望を行いたいと考えております。	福祉総務課	東与賀農村環境改善センター	総務 文教福祉
2	多布施川の河川内の葦を除去して欲しい。	多布施川の葦の除去の方針について、回答をお願いしたい。	多布施川は県が管理しておりますので、本案件は県に報告いたします。 国や県が管理する河川に関する要望等については、各河川管理者へ直接連絡していただきますようお願いします。なお、佐賀市で要望等を受けた場合は、佐賀市から各管理者へ報告いたします。	河川砂防課	開成公民館	建設環境
3	大雨が降ると冠水する。水路に草が茂っている。年3回清掃を行っている。市は3年に1回くらい除草してくれているが、河川清掃も高齢化で難しくなっている。市の方で考えて欲しい。	河川清掃に対する考え方について回答をお願いしたい。	昭和56年、市民運動から始まった「川を愛する週間」が、今年で35年目を迎え、今では自治会を中心に10万人近くの市民の方々が河川清掃に参加されています。 当活動の中心を担う自治会等の高齢化が懸念されているところですが、この歴史ある市民運動を次世代へ継続できるよう対策を講じながら、河川環境を維持できるよう努力いたします。	河川砂防課	開成公民館	建設環境
4	小学生でクラブ活動や放課後児童クラブに行ってない子どもたちや中学生の不登校で悩む子どもたちのための居場所づくり、例えば、青少年センターで様々な催し物があっているが、校区外の小学生は自分たちだけでは行けないことになっているため、各校区の公民館を活用して子どもの居場所をつくっていただきたい。	各校区の公民館を活用した子どもの居場所つくりについて回答をお願いしたい。	公民館では、平日の放課後、土・日、夏休みや冬休みなど、それぞれの校区のニーズを捉え子どもたちの居場所づくりの講座を行っていますので、そういった講座をご活用いただきたいと思います。また、講座を行っていない時でも、図書室やフリースペースなどを活用していただくことも可能と思われます。 このほか、校区によっては、地域住民の方々が週末や放課後に学校や公民館において、子どもたちの体験活動や地域住民との交流等を実施されているところもあります。 中学生の不登校で悩む子どもたちの居場所づくりについては、専門的な機関とも連携が必要になってくる場合もあるかと思われます。多種多様の利用が行われている公民館の中で、どのように対応が出来るのかはご利用されたい内容を見ての判断になってくるかと思われます。まずは、公民館にご相談をいただきたいと思います。 なお、青少年センターでは、来年10月にマルキョウ跡ビル（松原二丁目）に移転する際に、不登校等で悩む子どもたちのための居場所づくりを行っていくこととしています。	協働推進課 社会教育課	勧興公民館	文教福祉

No	市民の声	補足説明	執行部からの回答	担当課	会場	所管委員会
5	文科省が学校の統廃合問題を出してきているようだが、国としての方針がどうなっているのか。また、佐賀市はこの問題についてどのように考えているのか。明確に文書で回答をお願いしたい。蓮池町で学校が無くなれば、校区が無くなるため、非常に危惧している。	学校の統廃合に関する国の方針及び佐賀市の方針をお願いしたい。 また、小中一貫校芙蓉校の今後について、回答をお願いしたい	学校統廃合の手引では、国は、①小学校で1校6学級以下、中学校で3学級以下の場合は、統廃合について速やかに検討すること、②通学に関して現行の距離の目安に加え、通学時間概ね1時間以内の目安が追加されたこと、③小規模校を存続する場合の対策として、少人数教育の利点を活かした個別指導等を例示していること、などが特徴として挙げられます。手引はあくまでも統廃合の際の参考として通知され、その判断は設置自治体の判断が尊重されるものとなっています。 佐賀市教育委員会では、学校統廃合は行政が一方的に進めるものではなく、保護者はもとより地域住民の十分な理解と協力を得て、丁寧な議論が必要であると考えております。また、教育委員会では、平成22年8月に小中学校の適正配置に関する方針を策定し、学校規模・通学・地域の3つの視点に沿って、まずは複式学級の解消を最優先課題として取り組んでいるところです。 芙蓉校は、市内最初の一貫校として小中一貫教育に取り組み、小規模校の課題緩和が図られており、高い教育効果が得られています。このため、現在のところ芙蓉校の統廃合を進めることは考えておりません。今後も複式学級の解消を最優先としながら単学級の児童生徒の推移も踏まえつつ、小規模校の課題軽減のため、教育委員会方針に沿って、計画的に推進していきます。	教育総務課	蓮池公民館	文教福祉
6	蓮池町には市や県の公的施設がない。なぜ市営住宅や県営住宅が造られないのか、障害となっている部分、課題点は何なのか。理由を明確に示してもらいたい。	蓮池に市営住宅を新設（又は現在ある市営住宅の移設）について回答をお願いしたい。	市営住宅ストック総合改善基本計画では、市営住宅の戸数を現状維持と定めており、蓮池地区を含む市内全域において、現在のところ、新設の市営住宅建設計画はございません。 しかし、蓮池地区では、民間による宅地分譲の兆しがあることや雇用促進住宅が民間に譲渡される計画があること等を踏まえ、今後の動向を注視し、同地区において一定の入居者が期待できるなどの状況の変化があれば、研究すべき課題だと考えております。	建築住宅課	蓮池公民館	建設環境
7	まちづくり協議会のメリット・デメリットをこれまで設立された校区の事例から教えていただきたい。	—	まちづくり協議会へ取り組んだ地域からの意見 ○メリットについて ①共通の目標ができたことで、校区でまとまって活動しようという意識が高まった。 ②みんなで話し合う場を設けたことで、困りごとや課題が明らかになり、その解決に向けた活動をみんなで考えることができるようになった。 ③関係する団体が集まった部会制をとったことで、他の団体の活動を知ることができ、連携を取りやすくなった。 ④それぞれの部会を部会長・副部会長が引っ張っていくことで、役割分担ができるようになった。 ○デメリットについて ①協議会の設立に際しては、どうしても話し合いの機会が多くなる。 ②一つの行事を行うまでの役員会や部会での会議が多くなる。 ③自治会長や各種団体の役員は1年で交代するため、引き続き、まちづくり協議会の役員を担ってもらえるか不安。 ④現在は市からの助成金が中心のため、安定的な財源の確保が課題。	協働推進課	蓮池公民館	総務

No	市民の声	補足説明	執行部からの回答	担当課	会場	所管委員会
8	蓮池町の「小松浮立」は指定文化財にされているが、地元でだけでは保存が困難である。そのため、これを一旦やめるということになれば、将来復活するような時のために写真や文書で資料を残しておこうということになっている。この資料作成を現在行っているが、カラーコピー代にあてる補助はあるのか。また、どこがこの件に関する担当部署となるのか。	どのような支援が可能であるか、また、支援が難しければその理由を回答願いたい。	文化振興課では、佐賀市固有の生活文化や歴史・文化など（地域資源）を、維持・保全および次世代に継承することを目的とした地域の活動に対し、補助金による支援を行っています。（地域文化保存・継承支援補助金） また、左のことについては、今年度、小松自治会から地域文化保存・継承支援補助金の申請があり、事業の採否を決定する審査会に諮り、採択しております。	文化振興課	蓮池公民館	文教福祉
9	「パークフェスタ」が今年度は中止となり、これまで蓮池公園のPRや子どものためのイベントということで開催されてきたが、議会の決算審査で事業の所管変更をすべきとの意見が出たため、補助金がカットされたと聞いた。補助金をもらってイベントを再度開催するためには、市に提出する企画書を作成しなければならないということであるが、地元では作成する人材がいない。企画書作成のために指導をしてもらえる市の部署を教えていただきたい。	議会報告会開催後、「パークフェスタ」事業の取り組み状況に進捗が見られたと聞いている。 現在の進捗状況及び事業の見通しについて、回答をお願いしたい。	「パークフェスタ」のあり方につきましては、数年前から実行委員会とこども家庭課で協議を進めてきました。補助金につきましても、実行委員会から示されたイベントの方向性の趣旨に合致する所管部署を今後確定することを前提に、平成27年度はこども家庭課が所管しています。 数年前からの協議の中では、こども家庭課から企画案のサンプルを提示するなど、実行委員会と協力しながら進めてきました。今後も、所管部署の確定等、調整につきましてはこども家庭課が関与していく予定です。	こども家庭課	蓮池公民館	文教福祉
10	芙蓉校は、市内のどこからでも通学が可能であると聞いているが、親の送り迎えの負担が大きいため生徒数が増えていない。そうであるならばスクールバスを運行するといった対応はできないのか。	スクールバスの運行についての回答をお願いしたい。	芙蓉校で実施している特認校制度は、市の周辺部に位置する小規模の小学校で、「少人数できめこまやかな教育環境」、「豊かな自然環境」のもと、心身の健やかな成長を促進して、豊かな人間性を培い、明るくのびのびとした教育を希望する児童・保護者に対して、校区外からの入学を認める制度のことです。 入学の条件として、通学は保護者が責任をもっていただくこととしております。自家用車での送迎、バス通学などの自力通学を認めており、他の学校との均衡もありスクールバスの運行については考えておりません。	学事課	蓮池公民館	文教福祉

No	市民の声	補足説明	執行部からの回答	担当課	会場	所管委員会
11	5年ほど前に水路の水量について調査依頼があったが、結果の報告があっていない。日頃は水量が少ないが、調査時には水量は増量していた。	当該調査結果の有無及び調査結果について、回答をお願いしたい。	平成21年1月下旬から同年3月中旬までを2つの期間に分け、それぞれに自治会関係者の方々にご協力をいただき試験通水を実施しました。 試験通水は水路系統によりブロック分けし、多布施川左岸3ブロック、右岸2ブロックで行い、対象校区の10校区132自治会にアンケート調査を行いました。（対象校区：鍋島、開成、新栄、勧興、循誘、赤松、神野、若楠、高木瀬、日新） アンケートの回答内容は以下の通りです。 〇試験通水1回目 「よく流れた」　鍋島、若楠 「少し流れた」　開成、神野、若楠、高木瀬 「少ない」　新栄、神野、日新、循誘 「流れていない」勧興、循誘、赤松、神野、日新 「変わらない」　新栄、勧興、循誘 〇試験通水2回目 「よく流れた」　鍋島、若楠 「少し流れた」　開成、新栄、神野、若楠、高木瀬 「少ない」　勧興、新栄、日新、循誘 「流れていない」 循誘、赤松、日新 「変わらない」　新栄、勧興、循誘 ※ ブロック単位の評価であるため校区の重複あり 試験通水の結果につきましては、平成21年7月上旬から同年9月中旬にかけて、校区自治会長会議等で報告させていただきました。	河川砂防課	循誘公民館	経済産業 建設環境
12	中心部には、水が流れていない。水利権もあるだろうが。	中心部で以前より改善がされた点があれば、回答をお願いしたい。	平成24年4月の嘉瀬川ダム運用開始以降、毎秒1.4トンの水が嘉瀬川から石井樋を経由して多布施川に安定的に分派されており、その多布施川に分派された水は多布施川の各樋門を経由して市内の水路に分水されています。嘉瀬川ダムが運用される前、毎秒1.0トンを下回る日がしばしば生じていた状況と比較しますと、安定して薄く広く多布施川流域に水量が増えております。 また、嘉瀬川上流域の降雨状況によっては毎秒1.4トンを超える水量が配分ルールにより多布施川に分配されています。このような状況下におきましては、少しでも市内中心部に水を配分できるよう努めていきたいと考えています。	河川砂防課	循誘公民館	建設環境
13	樋門管理人の高齢化によって、自治会で管理を任される樋門も増えており、自治会でも操作が分からないことがある。	自治会の場合、役員が交代し操作内容がうまく伝わっていないことがよくあるので、自治会への操作指導について回答をお願いしたい。	毎年5月に樋門操作人全員を対象に樋門操作人会議を開催してますので、ご参加していただければと思います。	河川砂防課	循誘公民館	経済産業 建設環境
14	ふるさと納税で、1万円寄付で1万円以上のお礼をする自治体もある。それで採算が取れているのか。	ふるさと納税制度の方針について、回答をお願いしたい。	ふるさと納税は、ふるさとや縁のあるまち等への寄附制度ですので、基本的には、ふるさとを大切に思う気持ちに訴えていくことが大切だと考えています。また、ふるさと納税は、地元産品のPRにも有効ですので、制度の主旨を保ちながら佐賀の魅力ある地元産品をPRしていきたいと思います。 なお、本市のお礼の品については、返礼率が20%～40%（送料込み）となっております。	企画政策課	嘉瀬公民館	総務

No	市民の声	補足説明	執行部からの回答	担当課	会場	所管委員会
15	小中学校の冷房の話が出ているが、校舎はコンクリート造であるため滑りやすく、安全性では問題だ。木造建築にすれば、安全性も高く、夏の冷房も必要ないのではないか。	小中学校の木造建築化について、回答願いたい。	学校の改築、大規模改修等につては、佐賀市公共建築物木材利用促進方針に基づき実施しております。改築については、木造化の促進に努めるとともに、木造化が困難な場合は内装木質化を実施しております。また、非木造の大規模改修についても、内装木質化を実施しております。	教育総務課	嘉瀬公民館	文教福祉
16	川副中はサッカーが強く、県代表になれば九州大会が沖縄。全国大会が北海道であるが、その場合、選手派遣費の補助が非常に少ない。合併前は全額補助だった。中体連は学校教育の一環であり、今後検討してもらいたい。	中学生の選手派遣の補助の増額について、回答をお願いしたい。	中体連の九州大会、全国大会への大会出場補助金については、現在補助金交付要綱の改定を進めています。全額補助は難しいのですが、地域区分の細分化及び補助の増額を検討しています。	学校教育課	南川副公民館	文教福祉
17	ふるさと納税で、佐賀市に入ってくる分と出ていく分はどうなっているか。	ふるさと納税での収入額及びお礼の品やその他の所要額について、回答をお願いしたい。	平成26年度実績 佐賀市への寄附額:56,840,000円(内、50,000,000円は、個人の特定寄附) 佐賀市民の他自治体への寄附控除額:2,582,000円(推定)	企画政策課	南川副公民館	総務